

こども通信

暑中お見舞い申し上げます。

しばらくは暑い日(酷暑!)が続きます。熱中症にならないよう、また体調を崩さないよう、気をつけてお過ごしください

* *

感染爆発・そんな言葉が現実味を帯びてきました。新型コロナウイルスの流行が第5波を迎えています。その規模はこれまでの流行をはるかに凌駕する規模とスピードになっているからです。



東京都の感染者数は日増しに増加。一日あたり数千人になっていますが、一万を超えることも想定内になっています。周囲の首都圏も同じ。さらに地方にも流行が拡大しています。

激減し、今は若い成人が中心です。

ウイルスは次々と変異しています。現在はずでにデルタ株に置き換わりました。それにより、感染スピードが速くなり、再度感染することもあるようです。また、若い世代も重症化することが多くなりました。

患者を受け入れる医療体制はすでに手一杯。今後、重傷者でも入院できない事態になるかも。さらに、一般の医療制限が加わり、コロナ患者以外にも大きな影響が生じる可能性もあります。やはり患者発生を抑えることが重要。これ以上拡げないよう、行動制限を各自が行う必要があります。ワクチン効果が弱まっているかもしれませんが、それでもワクチンを1日も早く、多くの方に行き渡らせることも大切です。

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

.....

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

.....

各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

感染症情報

6月から始まったRSウイルス感染症の流行がまだ続いています。とても大規模な流行になりました。RSウイルスは気管支炎や肺炎を起こすウイルスで、特に乳児は呼吸困難をきたして入院が必要になることもあります。昨年から今春にかけては全く発生がありませんでした。その分、今季が大流行になっているのかもしれませんが。

伝染力がとても強く、保育園などでの集団発生がまだしばらく続くものと思います。引き続き注意していきましょう。

溶連菌感染症と**アデノウイルス性咽頭炎**が少数発生しています。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

こういったはっきりした名前をつく感染症以外に、発熱症状だけの「夏かぜ」も相当多いです。何らかのウイルス性咽頭炎です。こちらは特に治療は必要なく、数日で治癒していきます。

感染性胃腸炎も少し発生があります。子どもは脱水や低血糖を起こしやすく、ぐったりしている場合はすぐに受診してください。

新型コロナウイルス感染症が首都圏でまたもや大流行になっています。すでにデルタ株に置き換わっているとのことですが、これまでのウイルスとは全く違うような性格です。伝染力が強く、感染から発症までの期間も短く、これまでのワクチンの効果も減弱しています。

予防法は特に変わることはありません。密集を避け、他の人との距離を十分にとるようにしてください。

それにしても、こんな中でオリンピックをしているって、どうなんでしょう。お祭り事を大々的にやれば、自粛しなくてもいいよと言っているようなもの。真逆のメッセージです。政府が当初言っていた通り、コロナに打ち勝った後に開催すべきでした。

国民に一番効果のあるメッセージは「五輪中止!」だと思つのですが、いかがでしょうか。

今月の予定

院長・副院長出務

上越市夜間診療所勤務 18日(副院長)

上越有線放送 「健康ライフ」 17日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

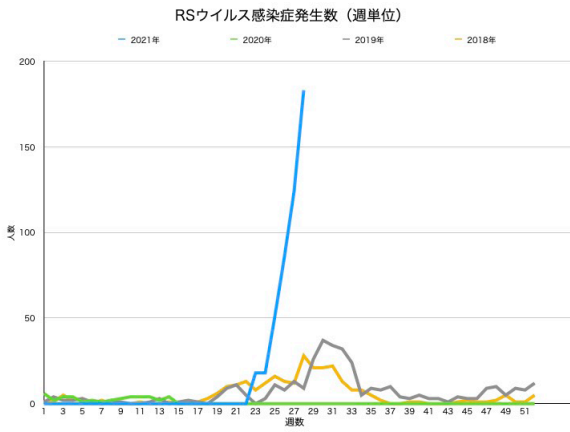
医院ホームページ内

RSウイルス

かかってない猛威

RSウイルス感染症が当地ではかかってないほどの猛威になっていました。6月第2週から発生が始まりましたが、たちどころに市内全域に及び、今でも保育園や幼稚園で集団発生しています。

RSウイルスは、以前は冬に流行する感染症とされてきました。ところが10年ほど前から夏場に流行することが多くなりました。当院の記録でも8月前後に流行の山があります。が、一年を通して少しずつ発生して



いる様子が見て取れます。

●2つの異変

昨年1つ目の異変がおきました。4月から全く発生がなかったのですが、夏もそうですが、冬も通して患者発生がゼロ。

ちょうど新型コロナウイルス感染症が問題になったころです。コロナウイルスが他のウイルスを駆逐したのかも、などとも言われていましたが、どうもそうではなかったようです。

コロナ感染を警戒し、その予防策を徹底させたことがRS発生を予防していたのでしょう(本当の理由はウイルスに聞かないとわかりませんが)。手洗いやマスクなどが奏功したのかもしれませんが、あるいは、少しでも風邪気味だと登園せず、自宅で過ごしたことが良かったのかもしれない(私はこちらの方が大きな原因だと思っています)。

今年春までは、そんなRS発生なしの状態が続いていました。

今年4月頃から北陸地方でRS発生が報告されるようになりました。その後全国各地に飛び火していき、

いずれ当地にもやってくるだろうな。

そんなことを思っていたところ、当院では6月第2週に発生を確認しました。1年数か月ぶりの発生でした。

当初は少数でしたが、週を追うごとに発生数は増大。その勢いは7月に入っても衰えることなく、1週間で200人近くにもなりました(グラフ参照)。7月下旬からは4連休、夏休みなどが影響し、ピークアウトするのではないかと考えています。

昨年とは正反対の、**2つ目の異変**です。

昨年から全く発生がなかったことが、今年の大流行に関係しているのでしょう。例年より年長児がかかっている印象があり、それが流行規模を大きくしているかもしれません。それにしても、これだけ大規模になったことは経験がありません。

県内の発生状況を見ると、上越地域で流行が始まり、次第に中越や下越に広がっていきました。ただ、その規模は上越がダントツですが、これも上越が北陸と地理的に繋

がっているのが原因なのかもしれません。

●乳児は要注意

RSの病状は年齢に関係がありません。より小さなお子さんは重症になりやすく、年齢が高くなると軽い感冒症状になってきます。罹患しても終生免疫にはならず、流行があると繰り返しかかってしまうのですが、そのたびに症状は軽くなります。

乳児は細気管支炎になり、気道粘膜の荒れ方が強くなります。その結果、痰の絡んだ咳が強く、息を吐き出せなくなってしまうこともあります。さらに**酸素吸入が必要な呼吸困難**を起こしてしまうことも少なくありません。

喘息発作と同じ状態になってしまいますが、治った後も気管支粘膜の荒れが残り、その後気管支喘息として治療が必要になることもあります。

咳き込みが強く、呼吸状態が悪い、ミルクを飲めない、顔色が悪い、ぐったりしている・・・そんな時はすぐに受診してください。